

明日からできるデジタル化を発見！



デジタル化ワークショップ 「Let'sデジ活!」開催レポート ～デジタル化で成果を上げるには～



福井商工会議所

こちら デジタル活用
ビジネス支援センター

2023年11月8日(水)、自社のデジタル化の進め方を明確にするためのワークショップ「Let'sデジ活!」を開催しました。講師を務めたウイングアーク1st(株)エヴァンジェリストの大川真史氏から組織のDXにおいて重要な自律したデジタル人材育成について解説いただきました。そのスタートラインである「興味を持つ」段階で必要な取り組みを、今回のワークショップにて15社19名の方に実践いただきました。

デジタル化の達成には 全社的理解と応援が不可欠

まず、デジタル化は担当者1人だけで進めるものではなく、「全社的な理解と応援がなければ達成できないもの」と説明がありました。



講師の大川真史氏。ウイングアーク1st(株)が運営するDX推進お役立ちサイト「データのじかん」主筆として、中小企業の課題解決に向けた取り組みを間近で支援・取材しています。

理想は、多くの社員がデジタル化に関心を持ち、そこから自主的に必要なことを調べ、さらに自分でツールに触れる、やってみる人間が現れ、それを社内でフィードバックする体制が整備されることです。本ワークショップでは、そんな「興味を持つ」社員を増やしていくために、社内で実際に取り組んでいきたいことを体験しました。

はじめに、デジタル化に成功した中小企業の事例からアイデアをインプットしました。自社工場にセンサーやスマートスピーカーなどを導入し、遠隔地からでも機械設備稼働状況を「見える化」した製造業者や、LINEのチャットボットを活用し予約受付サービスの自動応答の仕組みを作り上げた個人医院の事例など、実際に使用したデジタルツールを交えて紹介いただきました。

どの業務がデジタル化できるか アイデアのアウトプットを

事例を学んだ後、グループに分かれてデジタル化アイデアの検討を行いました。「デジタルツールを活用して現場の仕事を便利にする」を

テーマに、自分たちの日常業務を振り返り、その中から「現場」「事務所」「その他」の場面と、「人」と「モノ・場所」に関わるかどうかでアイデアを区分・整理します。参加者は「この場面の、こんな時に、どう改善されたら嬉しいか」を具体的に書き出していきました。



デジタル化アイデアのアウトプットを1人ではなく、他のメンバーと取り組むことで、自分の気付きを共有できるほか、同じ思いを持っている仲間がいるという共感が得られ、チームワークを育むことにも繋がります。

アイデア出しは、普段の仕事の中から抽出するほか、他社の事例から自社と似通っている課題を探したり、ツールから自社に活用できないかを検討することでもOK。各グループごとに共感する声が上がったり、お互いの着眼点について意見交換が行われました。

出されたアイデアを集約すると、いずれの参加者も「電話応対時間を短縮したい・無くしたい」「受発注履歴を自動でデータベース化したい」などのような顧客管理や、「議事録を録音した音声から自動作成できるようなると便利」「打合せ内容を日報に自動で反映したい」といった事務的な作業に対して、特に



アイデアを書き出すことで、デジタル化したいことが明確になり、目標が定まりやすくなります。

改善の余地があることがうかがえしました。また、登場時から注目を集めている「ChatGPT」をはじめとしたAIツールへの高い関心も垣間見えました。

トライ&エラーを推奨する
風通しの良い組織へ

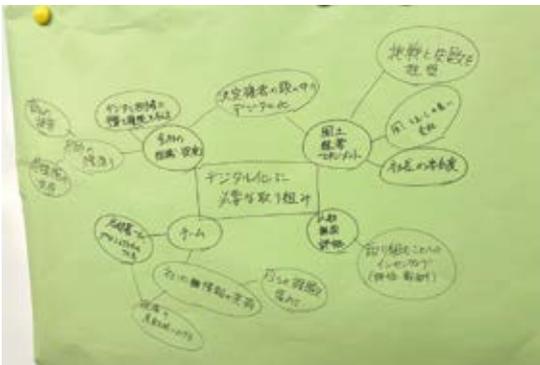
大川氏は「筋の良いデジタル化に取り組む」企業の特徴として、「毎日現場に出て、困り事を実際に目で見ている」「他人の『やってみた』を真似している」「迅速かつコストをかけず試行し、修正を繰り返している」などといった共通点を挙げていました。

一方で、デジタル化が円滑に進まない組織には、いつの間にかツールを導入することが目的に変わってしまっていたり、失敗を許さない雰囲気によって挑戦しにくい環境となっていることが多いといった問題点を挙げていました。デジタル化を成功させるには、実際にツールを利用する現場の人にとって使いやすいか、また、現場の意見を吸い上げながら試行錯誤しているか、そして、ツール導入後の効果検証を怠っていない

かということが問われます。現場で生まれた成功と失敗を、経営陣は前向きに受け止めつつ、さらなる成果を上げるためのアクションを続けていく必要があります。

これらの意見を参考に、デジタル化に必要な解決案を生み出すため、再びグループで話し合いながら「全社の組織・役割」「風土・経営・マネジメント」「チーム」「人材・採用・評価」の4つの観点からキーワードやイメージをチャート化していきました。

参加者は「やらされ感をなくすため、取り組むことへのインセンティブを設ける」「長い目で見守ること



デジタル化の障壁となることや、その課題をクリアするために必要なアイデアを「見える化」する「マインドマップ」。

も大切だが、スピード感も大事にしたいため、部長もしくは課長クラスに決定権や予算を付与する」など、現状を打破するためのアイデアを出し合いました。大川氏も「経営者のリーダーシップのもと、社内における責任・役割を明確化することがデジタル化を成功させる重要な要素である」と締めくくりました。

当所では、2月21日(水)に開催する「生成AIを活用した業務効率化に向けたワークショップ(申込受付終了)」をはじめ、今後もさまざまな参加型企画を開催していく予定です。県内企業のデジタル化事例などについてもホームページで紹介していきますので、自社のDX推進に向けた情報収集として、ぜひ左記二次元コードよりご覧ください。

本件に関するお問合せ先
福井商工会議所
 産業技術・DX推進課
 ☎0776-33-8252
 デジタル活用
 ビジネス支援
 センターHP
 はコチラ →